

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

熊本県 地域ワークショップ(市民フォーラム) 報告書

平成 30 年 3 月 4 日（日）に、スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」熊本県地域ワークショップとして、熊本県市民フォーラムが開催されました。講演会には伊藤華英氏（オリンピックロンドン大会競泳代表）と花岡伸和氏（パラリンピックロンドン大会車いすマラソン代表）を演者として、また、シンポジウムには上記の二名に加えて、江里口匡史氏（オリンピックロンドン大会陸上競技代表）がシンポジストとしてお招きし、下記の通りに開催されました。

【開催概要】

日時：2018（平成 30）年 3 月 4 日（日）13 時 00 分～16 時 50 分

会場：熊本市国際交流会館

主催：熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、NPO 法人ひとづくりくまもとネット

参加者：約 100 名（学校関係者約 20 名、高校生等一般市民約 80 名）

プログラム：

13：00～ 開会挨拶 熊本県教育庁教育指導局 体育保健課長 西村 浩二氏

13：15～ 講演

講演 1 伊藤 華英 氏 「東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて」

講演 2 花岡 伸和 氏 「パラトーク！～2020 と未来に向かって～」

14：25～ シンポジウム

テーマ「熊本からオリンピック・パラリンピック・ムーブメント」

シンポジスト

伊藤 華英 氏（オリンピックロンドン大会 女子競泳自由形 出場）

花岡 伸和 氏（パラリンピックロンドン大会 車いすマラソン 5 位入賞）

江里口 匡史 氏（オリンピックロンドン大会 男子陸上競技 4×100m リレー 4 位）

コーディネーター

中川 保敬 氏（熊本大学 教授）

16：50 閉会

開会にあたり、熊本県教育庁教育指導局の西村氏より、「2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、熊本からもスポーツの素晴らしさを子どもたちに伝え、日本全体で東京大会を成功させるための土壌の醸成を図りたい」とのご挨拶がありました。

講演会の前半には伊藤氏をご登壇され、冒頭で、2 月 25 日まで熱戦が繰り広げられていたオリンピック平昌大会の様子についてご紹介いただきました。その後、競泳との出会いや、19 歳でオリンピックアテネ大会への出場を逃すという大きな挫折、また、いかにしてそこから気持ちを切り替え困難に立ち向かってきたかについてのお話がありました。伊藤氏は、「自分の気持ちがしっかりしていれば、困難も必ず乗り越えられる」という強い信念によって、怪我で苦しんだときにも冷静に自らを分析し、オリンピックロンドン大会の代表を獲得することができたとのこと。自分がどうなりたいのかを常にイメージすることや、自分で価値観を作り上げて

いくことが大切だとお話ししていただきました。

講演会の後半には花岡氏をご登壇されました。花岡氏は、高校生のときにバイク事故によって脊椎を損傷し、車いすでの生活を余儀なくされたとのこと。入院直後は、自力での食事など、それまで当たり前でできていたことさえできなくなり、悔しさとやりきれなさでいっぱいだったといいます。しかし、自力で食事をするのができた、動けるようになった…などの小さな成功体験を重ねていくことで立ち直り、夢中になれる車いすマラソンと出会いや、さらには、パラリンピック出場という大きな夢の実現を果たすことができたとのこと。車いすマラソンとの出会いがあったからこそ、自己肯定感や自信を手に入れることができ、自分を好きになれたと話してくださいました。最後に、小さなチャレンジも、失敗をしないチャレンジでも関係なく、成功体験を得ることの積み重ねによって大きな一歩を達成してほしいとメッセージをいただきました。

講演会に続いて、江里口氏とコーディネーターの中川氏も交えたシンポジウムが行われました。各シンポジストからは、自らの経験談を踏まえながら、オリンピックやパラリンピックへの出場を可能にした秘訣や、挫折しそうになったときの乗り越え方についてお話ししていただきました。また、「オリンピック・パラリンピックに出場するために大切なのは、どれだけ強く気持ちを持ち続け、具体的なビジョンや計画を思い描くことができるか、また、当たり前のことを当たり前に実行できるかである」ということや、「その過程で挫折を経験することもあるが、努力してきたことは無駄にはならず、辛い環境でも支えてくれる人や応援してくれる人の存在を大切にすることで、また前を向くことができる」といった意見が出されました。2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会をどのように考えるかという質問に対しては、「東京だけの大会ではなく、日本全体の大会だと思って全国民で盛り上げていきたい」ということや、「オリンピック・パラリンピックを肌で感じることで、多くの感動や価値に触れ人々の人生の活力となってほしいし、そのような大会にしていきたい」と、強いメッセージをいただきました。



伊藤氏と花岡氏による講演の様子



シンポジウムの様子